

こぶしの花*



青森中央短期大学監修「中短のちゅっぴいおすすめ第二弾『食べてほうけん青森一周詰め合わせ弁当』」発売(9月6日～9月10日)

特集 * ウェルビーイングの実現を目指して

青森中央学院大学開学25周年	4
青森中央学院大学	6
青森中央短期大学	8
青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校	10
附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園	12
学園共通	14

特集 ウェルビーイングの実現を目指して



看護学部教授 木立 るり子

ウェルビーイング (well-being) とは、健康の概念 (WHO憲章, 1946年) として馴染みの言葉ですが、状態によってニーズは人それぞれ異なります。それぞれが幸福を追求し実現させようとする一方で、支援を必要とする人々がいます。あらゆる人々との共生社会、ユニバーサル社会の実現を目指す行政主導の活動が増えたなかで、大学の地域貢献は、人々のニーズの探索と行政施策の隙間を埋める意義があると思っています。筆者はこれまで、介護予防や被災地のコミュニティづくり等にかかわり、行政や組織との調整にいろいろありましたが、微力ながら行政の手が回らないところを補うことができたと思っています。

本学教職員が実施する地域支援活動は、参加者のウェルビーイングを目指す活動です。学生が参加することで地域に貢献する将来の看護師の素地ができることにもつながります。ウェルビーイングの実現を目指して、今後も、アウトリーチに基づく新たな、あるいは埋もれている潜在的なニーズに対応していく活動がなされることを期待しています。



◀ 連続公開講座「人生100年時代、より健康に生きる」の第1回講義を行う木立教授



▲ クア (健康) の道の展望台にて (阿部さん: 前列右)



「浅虫温泉海山クア (健康) の道」ドイツ式健康ウォーキングをサポートしています

クアウォーキングを支えようサークル 阿部 春華 (看護学部4年)



ドイツ式健康ウォーキングは、ドイツのクアオルト (健康保養地) で行われている「気候性地形療法」を取り入れたウォーキングであり、自身の体力に合わせた「頑張らないウォーキング」を特徴としています。浅虫ではヘルスツーリズム推進の一環としてこのウォーキングが行われており、本サークルの学生サポーターは参加者の体調チェックや心拍数・体表面温度の測定、その他参加者が歩きやすいようにサポートする活動を続けています。私は自然に触れあってリフレッシュしたいと思ったことをきっかけに、このサークルに参加し、3年目になりました。浅虫の豊かな自然を感じることで気分転換できるだけでなく、参加者やガイドの方々と話すことでコミュニケーション技術を向上させることができていると感じています。サポーターとして相手の小さな変化にも気を配り、対応する力も身に付けながら、地域の健康増進に貢献したい学生の皆さんにおすすめの活動です。

グローバルゼミ学生が「認知症サポーター養成講座」で学びました

経営法学部准教授 楠山 大暁



2023年10月31日、経営法学部2年グローバルゼミ (楠山ゼミ) において、青森市南地域包括支援センターの協力を仰ぎ、認知症サポーター養成講座 (以下、「認サポ」) を実施しました。今回の認サポを通して、身近な日常生活の場面で認知症を患っている方とどのように接するべきかを、地域包括支援センターの専門職の方々から学ぶことができました。

当ゼミでは日頃、主に社会保障政策に関するデータ分析を行ってい

ます。今回の認サポでは、データ分析だけでは分からない、日常生活の場面で問題となることを学べたと思います。今後も引き続き、認サポで学んだこととゼミで行っているデータ分析を通じて、認知症の方に優しい社会を作るためにはどのような社会保障政策を実現していくべきか、研究を進めていきたいと考えています。



学生の感想

- * 青森県内でも高齢化は進んでいますが、県民の3人に1人が高齢者で、さらにその中の58%が認知症だというデータを見て、驚いたのと同時に人ごとではないと思いました。私の祖母はまだまだ元気で畑仕事をしていますが、今回の講座は非常に参考になりました。また、地域に暮らす身近な人にも認知症の方がいるかもしれないので、学んだことを活かしたいと思います。(経営法学部2年 白濱瑞貴)
- * 認知症とは身近な病気、家族・地域住民がサポートすることで認知症の方も周囲の人々も生活しやすい環境を作れるということを学びました。困っているお年寄りに声をかけるのは難しいことですが、今回認知症について学び「認知症サポーター」になったことで、これからは積極的に声をかけ、周囲にも認知症についての知識を広めていきたいと思いました。(経営法学部2年 工藤怜奈)

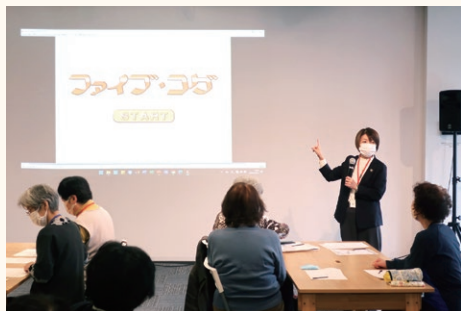
認知症予防講座「脳活いきいきプログラム」を実施しました

看護学部では、老年看護学の教員が中心となり、地域看護学や青森中央短期大学食物栄養学科・幼児保育学科の教員、特別養護老人ホーム三思園などと共同で、認知症予防を目的とした「脳活いきいきプログラム」を実施しています。

これは、認知機能の改善効果エビデンスが認められている運動療法、音楽療法、芸術療法、栄養教室を組み合わせた複合型プログラムです。日常生活に簡単に取り入れられるよう工夫と検討を重ね

て全12回の講座に、今年度5月～10月の開講期間、地域の高齢者の方のべ230名が参加し、熱心に取り組みました。

「共生」と「予防」を両輪とする「認知症施策推進大綱」（認知症施策推進関係閣僚会議、2019年）の基本的考え方に沿った本学独自の取組みとして、また、社会参加による社会的孤立の解消や地域共生社会の実現にも寄与しうるプログラムとして、今後も改善しながら継続していければと考えています。（研究支援・地域連携課）



看護学部・中川孝子准教授の指導で認知機能検査「ファイブ・コグ」を実施し、外部講師や短大教員によるプログラムを实践。看護学部の学生もサポートに入りました。

子どものための心理的応急処置 (子どものためのPFA)研修を開催しています

青森中央短期大学では「子どものための心理的応急処置 (子どものためのPFA)」研修を開催しています。1つのpと3つのL (準備する+見る、きく、つなぐ) を柱として、緊急・災害時におこる子どもの心の反応と対応について、ロールプレイやグループワークで、より実践的に学ぶことができる研修となっています。この研修は公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン公式研修で、本研修を受講すると、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの修了証が発行されます。

昨年に引き続き、2023年9月に紹介研修 (オンライン研修)、11月に1日研修 (対面研修) を開催し、県内各地から保育士や子育て支援関係の仕事をしている方、学生などの受講者が集ま

りました。参加された方より、「予防接種や友だちの転校、今回のコロナも子どもたちにとっては緊急事態だった。この研修を学んだことで、普段の保育にも生かせそうだ」と感想を話している方がいらっしゃいました。災害時だけではなく、普段にも活用できるという視点は新たな気づきを得ることができた研修会でした。



保育園から高齢者福祉施設まで、 楽しい音楽レクリエーションを届けます

音楽療法は精神的な安定やコミュニケーションの支援、脳の活性化、リラクゼーションなどの効果があり、認知症予防や発達支援への効果が期待されます。

中短♪音レクサークルでは、今年度4月、5月、7月は高齢者福



中短♪音レクサークル 中澤 桃音 (専攻科福祉専攻)

祉施設、9月は保育園に訪問し活動を行いました。高齢者福祉施設では、歌を歌う前に身体ほぐし、早口言葉、上半身の運動を行いました。その後に、楽器を鳴らし、季節に合わせた歌を歌い楽しみました。保育施設では、準備運動として音楽に合わせて『けんけんぱ』や『あしぶみ』をしてまわる運動を行い、『じゃんけん』を中心とした遊びを取り入れました。高齢者施設、保育施設ともに楽しんで活動を行っていただくことができました。

私は昨年から本サークルに所属しており、介護福祉士を目指したきっかけのひとつでもあります。高齢者施設での就職を希望しており、サークルでの学びと実践を活用して、これからも支援を行っていききたいと思います。

1998

1998 青森中央学院大学開学



▲ 第1回入学式



▲ 本部棟竣工。校歌に出てくる「津軽野のみどり、雪の白、海のブルー、こぶしの実のピンク」を配色し、風水の五行「木、火、土、金、水」を取り入れたデザインです。

2002



◀ 国内外への情報発信の拠点として、国際交流センターや学生寮を配した「学术交流会館」が完成

2002



▲ 学术交流会館竣工・総合運動場完成記念式典

2004

2004

青森中央学院大学大学院・地域マネジメント研究所開設



▲ 冬の正門イルミネーションに大学院開設の看板が登場

2006

青森田中学園
創立60周年



▲ 記念植樹



▲ 毎年参加している青森ねぶたまつりの子どもねぶた連合運行で創立60周年を祝いました



青森中央学院大学 開学25周年を迎えて

2023（令和5）年、青森中央学院大学は四半世紀に当たる「開学25周年」を迎えました。

1998（平成10）年4月、それまで青森中央短期大学にあった経営情報学科を改組転換して青森中央学院大学経営法学部として開学したことが始まりです。本部棟・図書館棟をはじめ、国際交流会館、プール棟、学术交流会館、総合運動場が次々と竣工され、青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科、地域マネジメント研究所を開設してキャンパスのアウトラインが完成しました。

また、2014（平成26）年に短大の看護学科を青森中央学院大学看護学部へ改組転換させ、2018（平成30）年には別科助産専攻を加えた編成となり、今に至ります。当時の写真と共に、25年の歩みを振り返ります。

2011 東日本大震災発生



◀ 野田村でのボランティア活動

青森中央学院大学サテライト
キャンパス「FRIENDLY
WINDOW」を青森市新町に
開設



2014 青森中央学院大学看護学部開設



▲ 開設記念として学問の神様とされる「ふくろう」のモニュメントが寄贈されました

2015



▲ 青森市横内地区10町会と横内地区を拠点とする青森中央学院大学・青森中央短期大学他で構成される「横内まちづくり協議会」が発足



▲ むつ市・弘前大学・本学による「むつサテライトキャンパス」開設



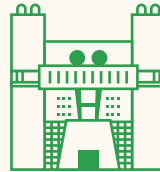
▲ 看護学部第一期生による「飛翔式」

2016

青森田中学園創立70周年



▲ 「そろばんと縫い針」から始まった学園創立70周年の記念展示



2020

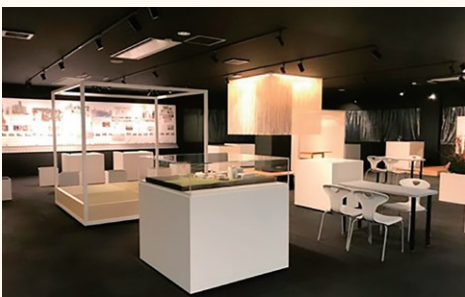


▲ 「看護師特定行為研修」がスタートし、第一期生入講式が行われました

2018



▲ 別科助産専攻初めてのオープンキャンパス



▲ 学園の歴史を展示する「+C(プラス・シー)」設置

2018 青森中央学院大学開学20周年、別科助産専攻設置



2021

▲ 「まなぶ あそぶ むすぶ」のコンセプトのもと、学生・教職員・地域にとって心地良いキャンパスを計画的に整備する「キャンパスグランドデザイン」策定



LOVE
WISDOM
TRUTH

2023

キャンパスグランドデザインに基づき「正門ひろばeⁿ(えん)」が完成



2020

2021



2023



開学20周年を記念して
マスコットキャラクター
「まあちくん」誕生

■ グローバル人材養成プログラムで インド企業に長期インターンシップ中

経営法学部3年 貝塚 祥



海外のインターンシップはキラキラした憧れの生活というイメージでしたが、もちろん一筋縄で行くものではありません。例えば、異なる文化や習慣に適応すること、慣れない食事を受け入れることに当初はとても苦労しました。最初の一週間で食中毒にあったことは今でも忘れられません。私はインドのグローバルスクールでインターンシップをしています。言語の壁や文化の違いがコミュニケーションを複雑化させ、誤解や適応には苦心しました。しかし、今では日本人向けの学校見学の仕事を任せられるほどに成長することができました。インドで過ごしていくうちに国民性や考え方に心が動かされる場面が多々あり、グローバル人材としての知見を育むことができていると思います。

海外でのインターンシップは、日本と異なる価値観を理解し、

自らの考え方を深めることができます。さらに、現地での経験を通じて国際的な人脈を築くチャンスが広がり、有益なコネクションを得ることができます。簡単な挑戦ではありませんが、異文化理解と問題解決能力を向上させ、昨日の自分よりも少しずつ成長できるよう過ごしていきたいと思います。



スクールの皆さんと。タスキのflexible (適応性のある) は校長先生が名付けた貝塚さんの特徴

■ 国際交流 第21回日本語スピーチコンテスト

2023年度「翔麗祭」のイベントの一つとして、国際交流センター主催「第21回日本語スピーチコンテスト」が開催され、中国、韓国、ベトナムからの留学生6名が出場しました。出場者は日本留学によって自身が体験したことや、母国と日本の違い、社会問題などを日本語でスピーチしました。

出場者はこの日のために何度も何度も練習を重ね、完成度が高い観客の心に響くスピーチを披露してくれました。審査員長と特別審査員による「最優秀賞」「優秀賞」「国際交流センター長賞」と、青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森中

央経理専門学校の学生と青森高校・青森明の星高校・青森南高校・青森西高校の生徒の皆さんによる「学生審査員賞」は、どれも僅差で決まる結果となりました。



【コンテストの結果】

- 最優秀賞：地域マネジメント研究科1年 叶文婷 (中国)
- 優秀賞：経営法学部交換留学生 孫智媛 (韓国)
- 国際交流センター長賞：経営法学部1年 LE THI THANH HIEN (ベトナム)
- 学生審査員賞：経営法学部3年 HOANG THI TU ANH (ベトナム)

■ 震災伝承・復興のフィールドワークを行いました

経営法学部准教授 中村 智行



経営法学部2年生の「中村智行ゼミ」では、自分の出身地など「地域の自然・社会特性を知ること」からはじめ、様々なデータを活用して「防災・減災に役立つマップ」の作成にチャレンジしました。夏休みには東日本大震災での震災伝承と震災復興を学ぶため、岩手県陸前高田市と宮城県気仙沼市でフィールドワークに行ってきました。また、「短期海外アクトIA」では、1923年に東京で発生した「関東大震災」から

100年が経過し、今後、首都直下地震の可能性が指摘されているなかで、「東京」のフィールドワークで関東大震災からの震災復興を学ぶとともに、1999年に台湾で発生した「台湾地震」の「震災遺構」のフィールドワークを行い、災害の教訓を伝承する実態について学びました。



学生感想

- ★ 私たちは、岩手県陸前高田市の震災遺構である「津波復興祈念公園」や「旧気仙中学校」などを訪問し、実際に津波の被害にあった地域のあまりにも悲惨な姿には心が痛み、改めて震災・津波の恐怖を身を感じる事ができました。しかし、宮城県気仙沼市の気仙沼湾を横断する三陸沿岸道路「気仙沼湾横断橋」を見学した際には、震災の被害を嘆くだけでなく、次にいつ起こるか分からない震災に備えて対策を講じ、復興に励む気仙沼市の姿には感動を覚えました。(経営法学部2年 下山翔也)
- ★ 私たちは、日本と台湾の地震をテーマに海外アクトを行いました。東京の「東京都復興記念館」では、焼け跡から見つかった遺品や厳しい状況下で送りあっていた実際の手紙を、台湾の「921地震教育区園」では、台湾大地震で崩壊した校舎を実際に見ることができました。どちらも当時のまま綺麗に保存されており、当時の悲惨さや恐怖を感じました。当時のまま残しておくことの意義を考えさせられ、決して他人事ではないと改めて気付かされました。(経営法学部2年 三上璃恋)

■看護学部2年生(9期生)による「飛翔式」を行いました

看護学部学生が、基礎看護学に引き続き、幅広く専門科目を学び始める2年次後期に、大学で看護学を学ぶことの意義を探究し、今後の学修に臨むにあたっての学修の志を明確にするために行う「飛翔式」。2023年10月28日、代表の1年生と、3年ぶりにご家族の方が見守る中、2年生(9期生)による「飛翔式」(今年のテーマ:勇往邁進)が行われました。



学生より

＊私は「母のような看護師になり青森県に貢献したい」という夢を持って入学しました。入学後は、授業や実習、サークル活動を通してたくさんの人と出会うことで、価値観が広がりました。そのため、飛翔式での誓いの言葉で宣言したように、これからも幅広く物事に挑戦し、継続して自己研鑽していきます。そして、青森県の医療を支える一員として、自分で感じたものや、考えたことを大切に、患者の心に寄り添うことができる看護師を目指します。
(看護学部2年 三間咲良)

＊私は、看護の専門的な知識や技術のほか、人と関わるうえで必要となるコミュニケーション能力や傾聴力などのスキルを身につけるために様々なことに挑戦しながら学習し、人として成長していきたいと思っています。そして、患者との関わりの中で患者が心に秘めていることを汲み取り、寄り添うことができる看護師になりたいです。また、根拠に基づく看護を行うことで、患者さんの安全安楽を第一に考えたケアができる看護師になりたいです。
(看護学部2年 中森奏)



▲ 代表して誓いのことばを述べる三間さん(左)と中森さん(右)

■馬偕医護管理専科学校夏季短期研修(8/22~8/29)

看護学部教授 三國 裕子



2023年3月に本学園と学術交流協定を結んだ馬偕医護管理専科学校(台湾)の護理科(日本の看護科に相当)学生19名と教員1名が、8月22~29日の短期研修に訪れました。歓迎交流会に始まり、様々なプログラムが実施されましたが、特に、相互の授業をプログラム内で行った意義は大きかったと考えます。

馬偕医護管理専科学校では【看護医護演習】として「ワールドカフェ」、本学では【地域健康支援実習】として「台湾の地域ケアシステムについて」と「避難所運営ゲーム(HUG)」を行いました。国を超えて学生が交流し、協力しながら学びを深めようとする姿は、未来を感じさせるものでした。今後は本学からの訪問など、より活発な交流を進める予定です。



学生感想「交流会を通して」

＊看護学部3年生は地域健康支援実習の一環として、馬偕医護管理専科学校の学生と交流会を行いました。交流会では各学校のカリキュラム、老人ホームや地域包括ケアの実際、看護師就職の現状について話し合い、台湾と日本の看護の違いや共通点を学ぶことで、看護に対する思いが高まりました。また、言語の壁を越えたコミュニケーションや多方面に興味を持つことによって、積極的に探究する姿勢の大切さを改めて実感でき、とても貴重な経験となりました。(看護学部3年 西村唯菜)



研究室紹介



農家が農業での所得を高める方法として、農業の「6次産業化」(6次化)が注目されています。農業の6次化とは、農作物の生産だけに留まらず、例えば、生産したりんごをその農家が道の駅などで販売すること、もしくは、りんごジュースなどに加工して、流通・販売することです。しかし、今日、農業の6次化事業に取り組む者は約40万人以上います。しかも、スーパーマーケット業界の大手であるイオン株式会社(イオンアグリ創造株式会社)も農業の6次化事業に取り組んでいます。このように、競争相手の多い環境で、農家は6次化事業で持続的に利益を得ることができるのでしょうか?この「問い」を考えるために、現在私は「経営組織論」と「経営管理論」の視点から、6次化事業で持続的に利益を得ている農家に共通する行動特性(コンピテンシー)は何か、

経営法学部准教授 楠奥 繁則 研究室



について研究しています。そして、その行動特性を見出し、農業の6次化の担い手育成研究につなげたいと考えています。

「農業での所得が向上した」と言う農家さんが増えますと、若い人たちも「私も農業で頑張りたい!」と思うのではないのでしょうか。結果、日本の農家の減少・高齢化問題を克服できると私は信じています。



趣味はボクシングと野球観戦(阪神タイガースの熱狂的ファン)。ボクシング部の顧問で、部員学生と監督に教わりながら毎日練習しています。

■ 中短のちゅっぴいおすすめ第二弾

『食べてぼうけん青森一周詰め合わせ弁当』を開発しました



食物栄養学科では、2012年から株式会社イトーヨーカ堂、青森県農林水産部総合販売戦略課と連携して、地産地消弁当の共同開発を行っています。

12回目を迎える今年は、青森中央短期大学監修「中短のちゅっぴいおすすめ第二弾『食べてぼうけん青森一周詰め合わせ弁当』」と題した弁当を開発しました（販売：2023年9月6日～10日）。県が推奨するだしを使って塩分を抑えるなど健康に配慮しながら、9つのマスの弁当箱を青森県の地図にみたと、地域に関連する食材や料理をアレンジし、青森を一周する食の冒険の旅を味わえるお弁当です。発売に先駆け、学生たちは宮下宗一郎知事を表敬訪問し、弁当を試食していただきました。



学生感想

＊ 県産品を使い、様々な調理法を組み合わせ、彩りも考えながら、仲間とレシピのアイディアを出し検討と試作を重ね、さらには試食会での評価を踏まえ再検討し、販売に至るまでの商品開発の一連のプロセスに携わることができました。商品開発の苦労や大変さを経験できた実りある機会となりました。表敬訪問はとても緊張しましたが、宮下知事が和ませてくださいました。（食物栄養学科2年 伊藤瑞穂）

■ テーブルマナー研修を行っています



青森中央短期大学の食物栄養学科と幼児保育学科の学生は、1年次に西洋料理、2年次に日本料理のテーブルマナーを学びます。食事の作法はもちろん、言葉遣いや服装、席の選び方、座り方、お礼の仕方など、余裕を持って行動できるように学ぶことが研修の目的です。

2023年9月19日、食物栄養学科2年生がモルトン迎賓館

青森で日本料理のテーブルマナー研修を行いました。研修会場と

なった「モルトン迎賓館青森」の方からマナーについての説明をいただき、4つの日本料理（本膳料理、懐石料理、精進料理、会席料理）の特徴や懐紙の使い方、使用されている食材、食器の扱い方や作法の歴史についても教えていただきました。

学生感想

＊ 講師の先生と配膳してくださったスタッフの方々が優しく丁寧に教えてくださり、集中して研修を受けることができました。今回の研修を通して、思いやりをもって周りの人に気を配り、良い雰囲気ですることの大切さを学びました。会話を弾ませることはまだまだ苦手ですが、日頃からマナーやエチケットを意識して実践していきたいと思います。（食物栄養学科2年 西澤大樹）



さかなを食べよう「さかな料理講座」レシピ紹介



本学では、20代～40代の若者世代への魚食イメージアップを目的とした青森県の「若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業」の一環で、地元漁師さんに魚介料理を教わる「さかな料理講座」を開催しています。今年度はヒラメ、ホタテ、マグロ、ホヤ等の調理を体験しました。これまで教わったメニューの中から、ホタテ漁師さんおススメの手軽でおいしい唐揚げと貝焼き味噌のレシピをご紹介します。



「ホタテの唐揚げ」

- 材料(1人前)：ポイルベビーホタテ4～5個、塩こしょう適量、片栗粉適量、サラダ油適量
- 作り方：(1) ポイルベビーホタテはクッキングペーパーに挟んで水気を取っておく
(2) ホタテに塩コショウを軽く振る
(3) 表面に片栗粉をまぶし、軽くきつね色になるまで揚げる



「ホタテの貝焼き味噌」

- 材料(1人前)：ホタテ半成貝で4～5枚、味噌(小さじ1程度)、ネギ(お好みで)、卵1個
- 作り方：(1) ホタテ貝殻(または鍋でも)に水を入れてひと煮立ちさせる
(2) うろを取ったホタテを入れて軽く火が通ったら味噌を入れる
(3) 煮えたらネギを入れ、卵を溶き入れて固まってきたら完成



「減災・防災を考える」連続公開講座を開催しました



青森中央短期大学はともに地域と生きる大学として、幅広い年代の方を対象に、全3回の連続公開講座「減災・防災を考える～「いざ!」という時どうする～」を開催しました。

食物栄養学科では中学・高校生対象の「もしもの時のクッキング」、幼児保育学科では「どんな時でも健康でいるため

の運動の習慣化」、専攻科福祉専攻ではオンライン視聴もできる「地域で考える福祉現場の災害対策」について、それぞれの学科の特徴をいかした内容の講座を行いました。

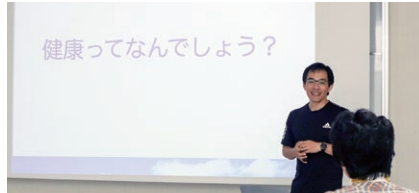
7/22 もしもの時のクッキング

担当:食物栄養学科講師 浜中幸美



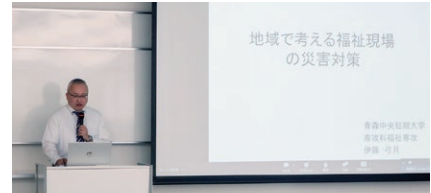
7/27 どんな時でも健康でいるための運動の習慣化

担当:幼児保育学科教授 鈴木寛康



9/30 地域で考える福祉現場の災害対策

担当:専攻科福祉専攻准教授 伊藤弓月



福祉セミナー

「高齢者の食事と栄養をサポートするおしごと」を開催しました



専攻科福祉専攻を擁する青森中央短期大学では、福祉・介護人材確保対策の一環として「福祉セミナー」を毎年開催しています。今年は、「高齢者の食事と栄養をサポートするおしごと～『口から食べる楽しみ』を支える～」と題して、翔麗祭2日目の2023年9月17日に、本学2号館で開催しました。

このセミナーは、本学とキャリア教育に関する連携協定を2023年9月21日に締結した日清医療食品株式会社北東北支店の全面協力により、食事を通して高齢者を支える管理栄養士と、安全においしく食事できるよう介助する介護福祉士

の仕事について、小学生とその家族に学んでもらう「おしごとゼミ」として開催しました。

学生による高齢者の食事場面のロールプレイ鑑賞や、日清医療食品の介護食や高齢者用スイーツの実食を通じて、子どもたちは、高齢者や体力の弱った人は嚥んだり飲み込んだりが難しいことや、いつまでもその人らしく生きるために「口から食べる楽しみ」を支える専門職者が福祉介護の現場で活躍していることを、理解することができた様子でした。



ミュージカル「かぐや姫」を公演します



青森中央短期大学幼児保育学科では、授業で学んだ音楽のアレンジや演奏、大道具・小道具、衣装の制作、創意工夫の身体表現などを、ひとつの作品にまとめたステージを披露しています。

幼児保育学科53期生による今年の演目は「かぐや姫」です。学科としても初めての演目、現存する日本最古の物語とされている「竹取物語」を題材として創りあげたミュージカルを是非お楽しみ下さい。(定員150名に達し次第、お申し込みを締め切ります。)

● 日程:2023年12月16日(土)

● 場所:アウガ5階AV多機能ホール

● 開場:13:30 開演:14:00

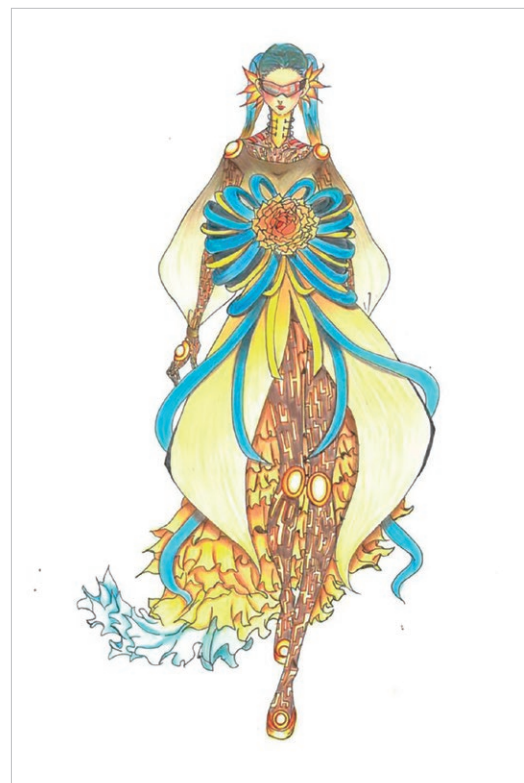




「Reclouthes Cup」最終選考会出場・実物作品制作

ブックオフコーポレーション株式会社様主催のアップサイクルデザインコンテスト「Reclouthes Cup」にて、服飾学科に通う全国の学生のエントリー作品約400点の中から40点が一次審査通過。その中に、本校トータルファッション科 ファッション販売専攻1年・大谷 采楓さんの作品が選出されました。

「Reclouthes Cup」では古着を使用し、自身の考えるアップサイクルをトータルコーディネートで表現します。デザイン性に加え、素材を選んだ理由、使い方、どこまで無駄なく使い切れたかなど、様々な視点で審査されます。夏季休暇中に実物作品を制作し、2023年10月29日の最終審査会でお披露目されました。惜しくも入賞は逃しましたが、この経験を経て成長した大谷さんの今後の活躍に是非期待してください。



翔麗祭ファッションショー・

Bunka Fashion Live 2024 開催のお知らせ

公式Instagramはこちら



青森中央文化専門学校では、2023年9月16・17日に
行われた翔麗祭のメインステージにてファッションショー
を開催しました。「mirage」と題し、「桃源郷」「Fleur」
「Séduisant」「Berserk」の全4シーン、17作品を発表し
ました。コロナ禍を経て3年ぶりに屋外ステージでの開催
ができ、たくさんの方々にご覧いただくことができました。

2024年2月23日(金・祝)には、アウグ5F AV多機能

ホールにてBunka Fashion Live 2024 -mirage-の開
催を予定しています。未発表のシーンも含めてフルバー
ジョンでお見せしますので、ぜひご期待ください。

詳細は青森中央文化専門学校公式Instagramにて随
時更新しますので、フォローをお願いします。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。





■ 学生がパソコン講座の講師役を務めました

2023年8月26日、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を開催しました。本講座は学生たちが講師役となり、参加者と1対1を基本にパソコンの操作等をレクチャーする形式で行い、今年で12年目となりました。

今回はワードでハガキ作成と、エクセルで住所録作成を実施しました。学生たちは分かりやすく説明することを心掛け、時には一緒に操作をしながら対応していました。また、参加者との会話を伴いながら対応していた場面もあり、学生たちにとっては良い経験になったかと思います。参加者からも

「分かりやすかった」「定期的にやってほしい」などのコメントもありました。参加した皆さま、ありがとうございました。



■ クルーズ船の入港歓迎セレモニーに参加しました

2023年11月2日の早朝7時、観光コンシェルジュコース学生4名が、青森市にある新中央ふ頭に着岸した英国大型クルーズ船『ダイヤモンド・プリンセス』の入港歓迎セレモニーに参加しました。

青森港国際クルーズターミナルホールにて、青森市の交流推進課の職員とともに、下船した多くの外国人に向けて、ねぶた囃子に合わせて鉦の披露、大漁旗やゆるキャラによるお出迎えのアシスタント、観光案内、写真撮影のシャッター係等、青森観光のスタートに一役買っていました。

コロナ禍で中断していた、クルーズ船のお出迎え実習は4

年ぶり、学生たちにとっては、観光業としての「おもてなしの心」を育む貴重な経験となりました。



■ 研修旅行に行ってきました

青森中央経理専門学校では、2023年11月6日～8日に2泊3日で東京都内へ研修旅行に行きました。経理事務コース、医療事務コース、観光コンシェルジュコース共に東京証券取引所の見学、そしてコース別に専門分野の研修先を訪ねました。



▲ 東京証券取引所にて



▲ 経理事務コースは日本銀行へ



▲ 医療事務コースはくすりミュージアムへ



▲ 観光コンシェルジュコースは銀座アンテナショップ(広島県)へ

附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化・浦町保育園

教育方針 健康で明るく心豊かな子ども ●友達と仲良く遊ぶ ●思ったことははっきり話す ●よく見、よく聞き、よく考える ●自分のことは自分でやる

附属第一幼稚園



秋の変化みつけた！
カサカサって音がする！



浅虫水族館見学をした後、
自分たちで考えた第一水族館をOPEN！
「ペンギンのお口にえさをあげてね！」と
飼育員になってお客さんをご案内します。



「よいしょ！よいしょ！！」「わっしょい！わっしょい！！」と
みんなで力を合わせて、さつまいもを掘りました。
採れたさつまいもで、焼きいもパーティーをしたよ！

附属第二幼稚園



「合宿保育」夜のついで
らっせら～らっせら～みんなで跳ねよう♪



「いもほり」おいもいっぱい、とれるかな？



「保育参観」あわあわあわ～楽しいね☆

附属第三幼稚園



へい！おまち！！「つばめずし」開店



初めて植えたサツマイモ
はくちょうさんがりっぱに育てました



ハロウィンパーティの準備中
ここにこうやって…こばとさんの活躍です

中央文化保育園



● 保育参観 ●
みんなで作った森の動物たちと楽しく過ごしました



非常災害訓練
みんなで幸畑福祉館まで避難しました！



● りんご狩り ●
今年もおいしいりんごゲット😊

浦町保育園



虫みつけた…！手作りの虫カゴと
アミを持って大喜びの子どもたちです



金魚ネブタのうちわを持って、太鼓をたたいて
お祭りごっこ遊びをしました



魚つり、たくさんつれるかな…！
なかなかつれないね

先生達活躍しています

夢や希望に満ち溢れた毎日に

昨年に引き続き、今年も年少組の担任をさせていただいています。

入園当初、不安でいっぱいだった子どもたちが、今では「せんせい、おはよう!」と力強くあいさつをし、笑顔で登園してくれる姿に嬉しさでいっぱいの毎日です。私自身、子どもと関わる仕事がしたいと志したきっかけは、通っていた保育園の先生に出会えたことです。大好きだった先生みたいに

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園
櫻井 美喜先生



なりたいたと大学まで夢を持って進みました。そんな私のように、子どもたちにも大きくなる喜びをかみしめながら希望をもって毎日を過ごしてもらいたいと思っています。幼稚園での学びが生きる力に繋がり、子どもたちの夢や希望に満ち溢れた毎日となるよう、今後もたくさんの遊びや学びを伝えていきたいです。

子どもの成長の嬉しさ

中央文化保育園に勤めて3年目になりました。今年度は3歳児の担任となり、毎日にぎやかに楽しく過ごしています。

初めて18名のクラスを持ち、子どもたちの勢いに圧倒される時もありますが、子どもとの会話から学ぶこともあり、常に発見のある仕事だと感じています。今まで出来なかったことや避けていたことを「がんばる!」と前向きな気持ちを大切にして練習を重ね、できた時の子どもたちの顔は嬉しさでいっぱいです。自ら考え、やり遂げていく姿を見ると成長を感じ、嬉しさが込み上げてきます。私にとって保育士として働いていて良かったと思える瞬間です。そんな瞬間を見過

幼保連携型認定こども園中央文化保育園
奥崎 祈先生



ごさないように子どもたちと密に関わり合い、様々な気持ちを共有して楽しい保育園生活を作り上げていきたいと思っています。

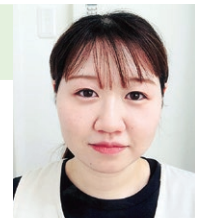
「なんで?」「どうしてそうなるの?」と疑問を重ねていく3歳児とともに、何事にも新しい気持ちで取り組み、保育士としてチャレンジしていきたいです。これからはいろいろな保育の形を参考にしながら「わくわくな保育」を目指していこうと思います。

保育園の栄養士として

青森中央短期大学を卒業後、浦町保育園に就職し今年で3年目になります。

保育園の給食では、栄養面だけでなく園児の食べやすさや好みなど様々なことに配慮するように心がけています。給食を通してたくさんの食材に触れてほしいという思いから、子どもの苦手な傾向のある食材をあえて給食に取り入れ、食べやすいように工夫して提供しています。その他にもアレ

幼保連携型認定こども園浦町保育園
栄養士 小倉 未来さん



ルギー対応など大人向けの給食とは違ったポイントがたくさんあり簡単な仕事ではありませんが、子どもたちの「美味しかった」や「全部食べた」という言葉を聞くと、子どもたちの成長に『食』という点で関われることを嬉しく思います。今後も美味しく楽しく食べられるような給食を提供していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園 嶋田 菜緒子先生

まるまるまるのほん

エルヴェ・テュレ 作 谷川俊太郎 訳 (ポプラ社)

この絵本は、黄色、赤、青の○を使った簡単な絵本です。たった一つの黄色い○から始まるこの絵本。○だけでどんなふうに進んでいくんだろうとページをめくると、○を押したりこすったりして○が増えたり色が変わったりしていきます。また、本をゆすったり、左右に傾けたりすることで○が本の中で移動するので、続きが気になり子どもの目がどんどんキラキラしていきます。読み聞かせはもちろんですが、○に触れて進むストーリーなので、どの年齢の子どもはもちろん、大人も楽しめるそんな絵本です。





■「青森ねぶた祭」に参加しました

今年8月、青森市で通常開催された「青森ねぶた祭」に、期間中の8月2日・3日、本学園から「青森中央短期大学附属幼稚園子どもねぶた」が出陣しました。本学園の子どもねぶたはコロナ禍で中止の年を除いて、今年運行50年。園児のハネトをはじめ本学園の学生による運行・囃子方で節目の年を元気いっぱい盛り上げ、沿道の観衆を魅了しました。





「翔麗祭2023」を開催しました

2023年9月16日・17日の2日間、青森田中学園の「翔麗祭 2023」を開催しました。

今年のテーマは「Jeunesse ～青春～」。コロナ禍以前のように模擬店を設置しキャンパスを広く開放して、学生も一般の方も参加した全員に青春を楽しんでもらえるよう学友会が中心となって企画しました。ステージイベントや体験ブース、模擬店、展示と、たくさんの方にご来場いただき、大盛況の2日間でした。



発行日:2023.11.30

発行:学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL:017-728-0131

FAX:017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>



「こぶしの花」
バックナンバー



「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

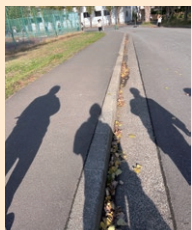
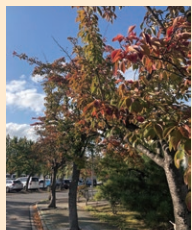
丸山 夏弥 柿崎はるな

外崎 秀香 杉田由佳里

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

町田美智子 高橋 晴美



「秋色キャンパス」

青森中央経理専門学校・

フォトサークルの皆さんの作品

撮影:2023年10月

左から 貝森由萌 鍋田実咲

奈良椎菜 原田心温 佐藤紋子(顧問)

学園報「こぶしの花」に投稿しませんか

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」に掲載する写真や情報を募集しています。学園に関する魅力的な作品やできごと等、在学生の皆さんからの投稿をお待ちしています。

■応募期間:通年

■応募方法:申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真・情報投稿」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し
写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。
掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■申込フォーム:<https://forms.office.com/r/SzQzdfPpKA>

■メールアドレス:acgukoho@aomoricgu.ac.jp

こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

